

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024年 2月 29 日

事業所名 児童発達支援ルームNolla

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		時間単位で利用定員を設けている。 3名迄/時間	定員3名となった場合のフロア利用の事業所内個室ブースを追加で設置
	2 職員の配置数は適切である	○		来客時の職員配置を手厚くしている	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	活動ごとの空間をパーティションを用いて、視覚的にわかりやすくしている。 活動に集中できるよう準備物の配置が一定となるようにしている。	レッスンの切りかえ時の準備物の整理整頓の迅速化。 児童も片づけ活動がわかるように絵カード等を利用して視覚的構造化エリアを増やしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		エリアごとの掃除・午前と午後 のトイレエリアの掃除など重点箇所を 押さえた清掃を心掛けている ・掃除チェック表の作成	より具体的に清掃実施の状況が確認できるように することで清掃忘れの箇所がないように、担当が
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		運営面の改善（サービス提供）を最優先事項として議題に取り上げ改善行動を増やしている。	利用者が増えていく環境においても研修時間が確保できるように、業務運営のスリム化を検討しサービス提供に必要な会議時間・研修時間が確保できるよう計画する。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者等向け評価表から、必ず数項目 選び、具体的改善行動を決定・、実行 するようにしている	・玄関エリアの動線整備、理解しやすい環境整備 ・掲示物（個人情報の配慮含む）での情報発信
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		定例実施の為、現在準備中。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月1～2回確保できるように計画的に 予定を組んでいる	・外部研修への参加機会を増やしている ・会議のスタイルを再検討し繁忙期でも実施しやすくする
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		月単位で、療育内容の振り返り・支援計画の振り返り・モニタリングの実施。1日単位で、日案の振り返りを実施している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		現在、アセスメントシートの仕様を試作調整段階中の為、 早期に複数の観点（3種類）のアセスメントシートを標準化していく予定。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家族の意向・連携事業所（保育所等）の意向を踏まえた個別支援計画の作成に努めている	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月ごとに、活動内容の整理・見直しを実施している	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月ごとに、活動内容の整理・見直しを実施している	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している			月ごと・更新時期のタイミングで、活動内容の整理・見直しを実施している	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日案の共有をして活動内容がわかるようにしている	支援内容の準備は、安定的に実施できているが直前の打ち合わせ時間を安定的に確保できるようにしたい。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日案の振り返り記録を確認し、次の支援に活かしている	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日案の振り返り記録を確認し、次の支援に活かしている	記録方法の職員間での統一。 統一のフォーマットを使用する事で質の向上に努める。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○	事業所のサービス提供内容や運営方針などをチラシ配布でお伝えしている。	連携を必要とする利用者様がいる際に、やり取りがスムーズになっていくように関係機関とコミュニケーションを大切にしてい	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		ケース会議を定期的実施している	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現状、保育所からの情報共有と連携段階までのやり取りとなっている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		今後、機会を得られるよう検討していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		今後、機会を得られるよう検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、機会を得られるよう検討していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		サービス提供記録のコメント返信などを通じて、支援内容・関わり方の統一感が持てるよう取り組んでいる	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている				
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		事前に書類をお渡しした上で、対面または電話による支援計画説明を実施している。同意の際は、電子署名にて実施。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		支援計画更新面談の実施を確実に実施していく中で、ヒアリングとその回答に努めている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		年に数回、定例開催ができるように企画実施していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		常勤職員を中心に、当日中に会議を設け、対応方針について検討するようにしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		安定的にホームページやSNSでの外部発信ができていない。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		写真撮影は事業所タブレットで実施ならびに管理している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		サービス提供記録を通じて、情報交換や質問のやり取りをコミュニケーションを密に取っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		今後検討していきたい
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している				
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		児童票の記入を年度ごとに更新依頼している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		今後、作成活用していきたい
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		身体拘束になり得るケーススタディについて職員と話し合いをする場合を設けている。該当するケースがあった際には双方の承諾と書類記載を徹底していく。